

保健室だより



令和元年8月発行
大正大学 保健室

今月は「薬物乱用防止」を特集します。薬物乱用は、単に乱用者自身の精神や身体上の問題にとどまらず、社会全体への問題と発展します。

夏休みのように行動範囲が広がる機会があると、このような危険に関わる可能性が高まります。薬物乱用の恐ろしさを知り、薬物乱用問題について考えましょう。

薬物乱用とは



薬物乱用とは、医薬品を本来の医療目的から逸脱した用法や用量あるいは目的のもとに使用すること、医療目的にない薬物を不正に使用することをいいます。

乱用される危険性のある薬物は精神に影響を与える作用をもっており、中枢神経系を興奮させたり抑制したりして、多幸感、壮快感、酩酊、不安の除去、知覚の変容、幻覚などをもたらす働きがあります。使用量によっては、急性中毒症状のために直接死につながる危険性もありますが、特に問題となるのは、これらの薬物のうち連用することにより依存性を有するものです。

我が国の近年の薬物事犯の検挙者は、覚醒剤及び大麻が大半をしめています。



大麻の乱用が拡大しています！

大麻事犯の検挙人員は、平成26年以降、3年連続で増加しており、乱用が拡大している状況です。大麻事犯の検挙人員に占める10代・20代の割合は4割強を占め、覚醒剤等の他の薬物に比べて、若年層の比率が高いことが特徴です。

若年層で大麻の乱用が拡大している背景として、大麻に関する誤った情報を持ち込みにして、安易に使用へ走ることが挙げられます。大麻については「身体への悪影響がない」「依存性がない」などの情報が流れています。しかし、実際には脳に作用し、様々な不具合を引き起こします。大麻を乱用すると、記憶や学習能力が低下し、知覚が変化します。また、乱用を続けることによって無気力状態や人格の変容、大麻精神病を引き起こし社会生活に適応できなくなる恐れがあるのです。

薬物の恐ろしさを認識しよう

【身体への影響】

薬物を乱用すると、頭痛、めまい、けいれん、妄想、幻覚等の症状が現れ、身体はボロボロになります。

【薬物依存等への危険性】

一回でも使用すると繰り返し欲しくなる性質があります。

薬物の量を増やさないと、しだいに効かなくなる性質「耐性」があります。依存状態になれば、自分では抜け出せなくなります。

【悲惨な事件を引き起こす危険性】

中毒による幻覚、妄想から、殺人、放火等の凶悪事件や事故等を引き起こす危険性があります。



ゴーヤのツナマヨ和え



材料：ゴーヤ 80g、塩小さじ 1/3、ツナ 60g、マヨネーズ小さじ 2.5、こしょう 少々

作り方：①ゴーヤは 2mm 幅にスライスして塩をまぶし、10~15 分おく。②沸騰した湯で 1 をさっとゆで、ざるにあげて水気を切る。③ボウルにすべての材料を入れ、和える。

出典：厚生労働省 HP/薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」HP / 佐賀県警察本部 HP / 農林水産省 HP 公式「キッチンクックパッド」より